

◎新「墓じまい」より「墓じまん」シリーズ／

今年8月号の巻頭特集で採り上げた同名企画が好評につき、不定期の企画として引き続き採り上げるようになりました



大代社長お気に入りの圓通寺型五輪塔をベースとして、小平霊園の区画や形に合わせて完成させた鈴木家の五輪塔。石塔本体は犬島のサビ石で、庵治産地の熟練職人により叩き仕上げでつくられた。人肌のような温かみのある表情が魅力的で、施主の鈴木さんは「経年変化に伴い深みが増し、貴禄が出るのが楽しみ」と話す

東京都立小平霊園

犬島サビ石叩き仕上げの五輪塔

香川・宇多津町の圓通寺五輪塔をベースにアレンジ

▷施主 鈴木伸一郎さん

▷販売・設計・施工 大徳石材工業(株)

東京都杉並区清水1-26-10 tel.03-3395-0148

<https://www.daitokusekizai.com/>

▷企画・制作 たま企画室(㈱)翼石材・小売部門

香川県高松市庵治町丸山6390-44 tel.087-870-3288

<https://tamakikakushitsu.com/>

東京都東村山市にある都立小平霊園に今年六月、岡山県犬島産の花崗岩「犬島石」(サビ石)を叩き仕上げで完成させた五輪塔が建立された。施主は杉並区荻窪で鈴木青果店を営む鈴木伸一郎さん。同じ荻窪で石材問屋を営む、一九二四(大正十三)年創業の大徳石材工業(株)(大代賢太郎社長)が受注・設計し、香川県高松市の墓石メーカー(㈱)翼石材の小売部門たま企画室(代表 高橋晋也氏)が企画・制作を行なった。



施主の鈴木伸一郎さん(中央)とお母様の肇子さんとともに、不思議なご縁で鈴木家のお墓を建てることになった大代社長

本五輪塔は、昨年六月に亡くなられた、鈴木さんのお父様(故・澄男氏)を供養するために建てられたもの。都立霊園(一部施設を除く)の使用者の公募は例年一回(約三週間)、六月中旬から七月上旬にかけて行なわれるが、葬儀後、令和六年度の募集期限が迫っていたため、四十九日を迎える前の慌ただしい時期に決断する必要があった。同年度は都立八霊園のうち六カ所で一般埋蔵施設(一般墓地)の公募があつ

たので、鈴木さんは締め切り直前のタイミングで、小平霊園の一般墓地に申し込んだ。

抽選の結果、一番人気は(使用料が高額であるにもかかわらず、募集数が少なく、都心の一等地という立地のよさが魅力の)青山霊園だが、その他五霊園のなかで最も人気の高い一般墓地が小平霊園の最小区画(一・八五×一・九五m)だった。募集数四十に対して受付数二百八十(倍率七倍)という倍率の高さだが、鈴木さんは初挑戦ながら見事それに当選した。

鈴木さんにとってお墓づくりは初めての経験で、石材店を訪問するのも初めてだったが、当選した区画の下見がてら、門前に並ぶ石材店の一社を訪ねた。さっそく店員に用件を伝えると、お墓の形や予算などを聞かれ、「五輪塔でしたらこういう形ですね」とカタログで提案されたが、それは現代的な磨き仕上げの五輪塔で、自分がイメージしたものとまったく違っていた。さらに石の色について質問され、「明るいい色でしたら、大体この辺りが人気です」と中国産のサンプルが三枚くらい提示された。

そうした事務的なやりとりを何度か続けるう

ちに「お墓をつくるってこういうこと? 何か違う。自分がここで何をしているのか、わからなくなった」とそのときの心境を打ち明ける。当日は息子さんも同席していたが、やはり鈴木さんと同じように釈然としないモヤモヤした印象だったという。

それでも「このまま(お墓を)建てないわけにもいかないので、どうしたらいいか」と葛藤していたところ、自宅から青果店へ向かう途中に石材店があることを思い出した。それが大徳石材工業(株)だった。「墓地の門前ではない、街なかの石材店でもお墓をつくってもらえるのか」という疑問もあつたが、意を決して入店すると自分の好きな五輪塔や宝篋印塔のポスター(写真)が店内に貼られていた。

さらに五輪塔の魅力や石造美術について話を聞くなかで「実はこういうのがあるんですよ」と大代社長に案内されたのが、店頭展览展示されている犬島石のサビ石を叩き仕上げで完成させた五輪塔だった。それを見た瞬間、その堂々とした佇まいにすっかり心を奪われ(まさしく一目惚れ)、初めて「これがいい。こんなお墓を

建てたい」という気持ちになったという。

その犬島石の五輪塔は、香川県宇多津町の圓通寺五輪塔（南北朝時代、町指定文化財）をベースにして、(有)翼石材・たま企画室が企画・制作する「安寧」シリーズの技法に基づいて叩き仕上げてつくられたものだった。同シリーズは、仏教の教義に基づいた意匠を重視する「世伝石塔」シリーズのコンセプトを踏襲しつつ、一部



大徳石材工業の事務所前に展示されている圓通寺型五輪塔（右）と本家（香川県の圓通寺）の五輪塔（上、大代社長提供）



工程にエアビシヤンを用いて制作期間を短縮させている。たま企画室の高橋晋也さんに案内してもらった圓通寺五輪塔を大代社長が惚れ込み、犬島石のサビ石でつくってもらったものを店頭に展示していた。

鈴木家のお墓として、埼玉県東松山市の光福寺にある宝篋印塔（鎌倉後期、重文）や神奈川県箱根町にある元箱根五輪塔（鎌倉後期、重文、曾我十郎・五郎兄弟と虎御前の墓との伝承あり）も候補の一つに挙がったが、初見時に運命的な出会いを感じた圓通寺型五輪塔をベースとしつつ、区画の形や大きさ、全体のバランス、予算などを踏まえて部分的にアレンジしてつくることに



石塔の仕様や形式、原石名など制作方法が書かれた品質保証書（大代社長提供）

なった。外柵（G623）と墓誌（インド黒YKD）は中国製で、五輪塔の重厚な雰囲気や質感に合わせて水磨き仕上げとした。

なお犬島石（白手とサビ石の二種類）は、温かみのある柔らかな表情が特徴で、その魅力を最大限に引き出せるのが叩き仕上げとされる。墓石材としての知名度はさほど高くないが、それは近年流通する墓石の多くが研磨仕上げであることも一因であろう。

耐久性などに問題はなく、主な（墓石以外の）使用例として、大阪城の石垣に使われた最大の巨石（桜門枘形にある高さ5.5m×幅1.7m、重さ約108トンの鏡石。通称「蛸石」をはじめ、鶴岡八幡宮（神奈川県鎌倉市）の大鳥居（一の鳥居、重文）、江戸城の石垣などが知られている。出荷量に限度があり、大量生産には向かないが、五輪塔など叩き仕上げの墓石が増えれば、間違いなく人気石種の一つとなるだろう。石塔本体の発注から納品までが約四ヵ月、すべての部材が整ってから基礎工事、本施工を行ない、余裕をもって完成させた。

「今回は叩き仕上げの五輪塔ということで、



青果店を営むだけに、一周忌の法要には野菜や果物などのお供えがたっぷり用意された(施主・鈴木さん提供)



ブチルゴムを主成分とする接着剤『ソフトファスナー・C』による施工の様子(大代社長提供)

同様の石塔を複数建立されている石材店とも相談した結果、通常とは違う工法を採用しました。ノミで叩いた石の表面が荒れた状であることを考慮して、そこに振動が直接伝わらないように(粘着性に優れ、経年変化の少ない)ブチルゴムを主成分とする墓石用接着剤『ソフトファスナー・C』を使って施工しました」と大代社長は説明する。

なお同社は石材問屋という立場なので原則として小売りはしないが、今回は自分の思い入れでつくった特

殊な五輪塔だったことに加え、近所のよしみということで対応した。

開眼・納骨法要は一周忌に合わせて、今年六月に執り行なわれた。施主の鈴木さんは、今回のお墓づくりをこう振り返る。

「いま青果店がある場所(荻窪駅前の教会通りの途中にある角地)は、空き店舗をバイクで探しているときガス欠で止まった場所でした。祖母のお墓がある小平霊園は子どもの頃から慣れ親しんだ霊園で、その公募にすんなり当選し、当たった区画も同じ角地でした(笑)。しかも、鎌倉などの史跡めぐりが好きで、その趣味と感性を理解してくれる石材店が地元であり、そこに自分の理想とする(鈴木さんにとって強く大き



お墓に手をかけ飛び切りの笑顔を見せるお母様(施主・鈴木さん提供)

な存在だった父親のイメージとピッタリ合う、どっしりとした)五輪塔が展示されていたというので、不思議なご縁を感じています。小平霊園は墓地の近くまで車で乗り付けることができるのも魅力で、お彼岸やお盆だけでなく、近くを通ったときにふらっと立ち寄ってお参りしています。故人(父)はもちろん、母(故人の妻・撃子^{けいこ}さん)も二人の息子たちも喜んでいます」と鈴木さん。さらに「もし最初に訪ねた石材店で、カタログから型通りの形や石を選んでお墓を建てていたら、愛着がわかず、お参りするたびに後悔することになったのではないか。それではご先祖様に申し訳ない。ツルツルに磨いた墓石は経年変化で表面の色がくすむだけですが、叩き仕上げは逆に味わいが増し、何十年か先には貫禄が出てくる。季節ごとに異なる陽射しの角度や雨に濡れたときも違った表情を楽しめる。そここそが石の魅力です。ご先祖様を大事にする文化が、自分や次の世代へと継承されていくのはよいこと。お陰様で、みんなが集える、心が豊かになる素晴らしいお墓をつくることができ、とても感謝しています」と述べていた。